

上士幌町第 1 期子どもの読書推進計画  
ダイジェスト版  
(平成 28 年度～平成 32 年度)



平成 27 年 4 月開園 上士幌町認定こども園での読み聞かせ

平成 28 年 3 月 3 日策定  
上士幌町教育委員会

## 子どもの読書はなぜ必要？

(平成24年度国立青少年教育振興機構調査より)

子どもの頃の読書が多い大人は、「未来志向」「社会性」「自己肯定」「意欲・関心」「文化的作法・教養」などの意識、能力が高いことが明らかになっています。また、乳幼児から小学校低学年までに「家族から昔話を聞いた」「本や絵本の読み聞かせをもらった」などの経験は、子どもの「社会性」に大きな影響を与えることが明らかになっています。

このように子どもの頃の読書は、子どもの育ちに、あるいは大人になってからの意識・能力に大きな影響を与えることが明らかになっており、地域全体でその取り組みを進める必要があります。



認定こども園絵本コーナー

## 上士幌町の現状と課題

平成27年度に実施したアンケート調査では、家庭、小学生及び中学生の読書の状況が明らかになりました。

小学生	多くの児童は読書好きですが、読書する日数は学年により大きな差があります。学校図書室の利用についても学年により大きな差があり、町の図書館利用の定着は進んでいません。
中学生	読書好きの生徒はよく本を読み、読書が嫌いな生徒は本を読まないという関係が明確になっています。また、多くの生徒は学校図書室や町の図書館の利用をしていません。
幼児の家庭	多くの家庭では絵本の読み聞かせなどを行っていますが、年齢が上がるにつれてテレビやゲームの時間が増えています。テレビやゲームの時間が増えると、読み聞かせの時間が減っています。
図書館	図書館での読み聞かせ活動、学校での読み聞かせボランティアによる読み聞かせ活動などは、参加者に広がりが見られません。

## 課題を解決するための2つの重点目標



「カッコウのお話会」

- ① 乳幼児期から小学校低学年までの子どもが、より本の楽しさを体感できる環境整備
- ② 子どもたち自らの興味、関心に沿って本から様々なことを学ぶ環境整備

## 5年後までに達成する具体的な指標

### ◆小学生

読書好きの児童	1週間の読書日数		学級文庫利用 1週間1冊以上	学校図書室利用 1週間1回以上
	あまり読まない	毎日読む		
全学年で70%以上	全学年25%以下	全学年20%以上	全学年70%以上	全学年70%以上

### ◆中学生

読書好きの生徒	1か月の読書冊数 読まない	学校図書室利用 ほとんどいかない
全学年70%以上	全学年10%以下	全学年50%以下

### ◆家庭・図書館

認定こども園家庭	1週間の読書日数	保護者の読書量 1か月1冊以上	図書館読み聞かせ活動
読んでいない	ほぼ毎日読む		
全クラス25%未満	全クラス40%以上	60%以上	平成27年度実績を維持

## 指標達成のための具体的な施策

### 1. 「いつも身近に本がある」環境づくりを進める取り組み

#### ① 有機的につながる読書のネットワークづくり

- ◆ 各関係者、各関係機関、各事業の現状把握やニーズの共有などを行うため、子どもの読書に関わる情報を共有する機会を作ります。
- ◆ この計画で定めた施策の進捗状況を、関係組織・機関・団体と連携して評価検証します。

#### ② 認定こども園における図書の充実

- ◆ 認定こども園が計画的に蔵書を増やしていく取り組みを進めます。

#### ③ 小学校、中学校における図書の充実方策

- ◆ 図書整備の総合調整を行うコーディネーターの役割を担う人材の配置
- ◆ 上士幌小学校の図書室を町内小学校の中核図書室として位置付け、さらに充実させます。
- ◆ 平成28年度、29年度を図書の重点整備の年度として位置付けます。



小学校での読み聞かせ



## 2. 子ども自身が読書の大切さを実感できる取り組みの促進

### ① 全児童生徒で取り組む読書活動

- ◆ 保育教育の中で取り組む認定こども園での読書活動を推進します。
- ◆ 毎朝、原則として全校児童生徒による「朝読」の取り組みを進めます。
- ◆ 新生涯学習センターに移転する利点を最大限活かし、図書館と連携して学童保育所での読書活動を推進します。

### ② 地域で進める子どもの意識啓発

- ◆ 読書に関する事業について、効果的な周知を行います。
- ◆ 関係機関、関係団体と連携協力しながら、子どもに本の楽しさを伝えます。
- ◆ 北海道家庭教育サポート企業と連携し、全町的な読書気運の向上に努めます。



平成 28 年 2 月 22 日  
北海道家庭教育サポート企業合同調印式

## 3. 家庭へ読書を広めていく取り組み



平成 27 年度図書館講演会

### ① 保護者の意識を高める取り組み

- ◆ 保護者が育児に読書を取り入れていくことの重要性について、継続して学べる機会を作ります。
- ◆ 子どもの読書の効果などについて、図書館や認定こども園などの施設を活用しながら、効果的にその情報を発信します。

### ② 地域における保護者の支援体制の充実

- ◆ 商店、飲食店、入浴施設などに協力を仰ぎ、町民が日常的に足を運ぶ場所で、親子が絵本を楽しめる環境を作るなど、その取り組みを全町に広げていきます。
- ◆ 図書館が親子の居場所となり、立ち寄りたくなるような空間づくりを進めていきます。
- ◆ 仕事帰りの時間や、認定こども園、学童保育所の送迎の際に親子が利用しやすい図書館となるための開館時間の延長を検討します。



認定こども園による図書館利用